弔詞

謹んで和尚様の津送に当たり

檀信徒を代表致しまして哀悼の辞を申し述べます

かえりみますれば正宗和尚様は昭和三十五年二月当山副住職として入山され、同年七月に先住職純堂和尚様がされ第四世住職となられました

昭和四十七年には本堂及び庫裡の改修工事を行いました。平成三年五月には熱田の地より現在の天白の地に移転という大事業を行ない、本堂、書院、庫裡をされて、檀信徒の安らぎとご供養の場を提供して頂きました。文字通り当山の面目を一新されてまさに寺門の興隆、発展に尽くされました

また平成元年には直腸の半分を切除する大手術をされましたが、仏天のご加護と和尚様のお徳により再びお元気なお顔を見ることが出来、檀家一同したことを覚えています。

しかるに、、は世の常とはいえ　五十年間という長きにわたり　私たち檀信徒一同をしっかりと信心の道を歩ませて頂き、ありがとうございました

和尚様とお別れをせねばならないことは返す返すも残念でなりません。気安い中に真実と思いやりの有ったお人柄をしのぶ時、胸に迫り惜別の情、耐え難く切なるものがございます

ここに心からご冥福をお祈りし御霊前において和尚様の真実を身体で語られた尊い教えを心のとして当山の護持と花園会員としての自覚のもとにその責任を全うすべく益々精進努力することをお誓い申し上げて弔詞と致します

令和元年五月三十一日

政林寺檀徒総代　　　　　　　　　木下　周大